

は鐵、鋼及び「ニツケル」に就き特に此點を研究し其誤なきを證明したり熱膨脹に變化ありや否は先年ベネデツクス氏が攻究せし所にして $\Delta$ 變化に伴ふ不連續的の變化なきを確めたりしか磁氣性膨脹は本多君が十數年前既に研究せし所にして極めて困難なる装置と觀測とを以て鐵、鋼「ニツケル」及び「コマルト」に就き一千度より零下百八十三度迄の間に於て之を攻究するを得たり其結果熱膨脹と同じく磁氣性膨脹も亦 $\Delta$ 變化に伴ふて不連續的の變化なきことを確めたり。

熱電氣性の變動か $\Delta$ 變化に伴ふて生ずるや否は未だ十分に研究せられず彈性に關してローゼンハインハムフライ兩氏の研究によれば多少の變化ありと雖も $\Delta_2$ に於ては $\Delta_3$ に於ける如く急激ならず又結晶的性質に關しては $\Delta_2$ 及び $\Delta_3$ 鐵に於て差異を見ず而して本多君は自己及び是等の諸研究を綜合して $\Delta_2$ 變化は單に分子の歪に伴ふものなりと結論せり此議論は特に鐵の磁性を説明するに適切なるものにしてタムソン氏か合金に就き屢論せし事項と一致する點あり尙研究を積み其理論か磁氣性を説明するに十分なるや否を解決するの日はあるべし。

本多君は $\Delta_2$ 變化に關する研究及び其見解を昨年五月英國 Iron and Steel Institute (鐵鋼協會)の年會に提出し高評を博したり其間接冶金學上に及ぼす影響の大なるを知るへし磁性に關する同君の研究は夥多きものにして諸元素の磁性か周期率と歩調を保つことの研究の如き帶磁性の溫度に依て變化する狀況を諸元素に就き研究したる論文の如き汎く學界に知られたれば一々之を贅せず特に其鐵に關する研究の如きは昔に學術上貢獻するところ多大なるのみならず工業上に及ぼす影響も亦尠からざるを認む。云々

### ●新設東京製鋼株式會社鑄鋼所 東京製鋼株式

會社は其の製鋼用原料自給並鑄鋼品製造の目的を以て府下小名木川通製粉會社隣地(大島町)に約二萬五千坪の敷地を卜して鑄鋼所を設置し漸く竣工に近づけりと云ふ、其の設備の概要を聞くに工場は製鋼工場、鍛鍊工場及機械工場之三にして製鋼工場に於ては十噸酸性平爐二基、瓦斯發生爐四基、移動起重機能力十噸及五噸各一箇を有するものな

りと又鍛鍊工場には現に大阪廣谷工場製一噸半、一噸及二分の一噸の蒸汽鏈各一箇を据付け更に石川島造船所に注文中の六百噸水壓機は近々其の据付けを爲すべく別に二千噸水壓機一基を外國に注文せりと云ふ、現在の機械工場は木骨假工場にして追て製鋼工場に隣接して大形機械工場を建造する豫定なりと、本鑄鋼所に於ける製品は針金原料たる塊鋼各種鑄鋼品及鍛鋼品の三にして鑄鋼品は原料としてヘマタイト銑及仙人山銑鐵を用ゐ六月十三日初めて試鑄を行ひたりと云ふ、現に鑄造濟なるは船尾材一個にして帝國海事協會の證明書付なりと、鍛鋼品は設備未だ完備せざるを以て製品を出すに至らざるも神戸且光商會の注文に係る徑約七時のクランク軸の製造に着手すへき豫定にして本品も亦帝國海事協會の證明書付の注文なりと云ふ、針金用材は東京製鋼會社小倉分工場に送り壓延するものにして本工場に於ては小倉工場製鋼の不足を補ふものなりと、因に本鑄鋼所技師長としては元海軍技師松村六郎氏就職専ら畫策中なりと云ふ。

●大阪製鋼所 大阪市外西成郡豐崎町にある同所は妹尾氏の創立に係り、野口定治發明の鋼化法に依り鋼化鐵の外浚漂船用具造船用具及び刃物類の製造に従事し居れるか、今回資本金二十萬圓の會社に改め鐵工所造船所等に賣込む大阪範多商會と一手販賣の契約をなせりと。

●大倉組廣島製鐵所 廣島縣佐伯郡小方及び大竹兩村に亘

り設置の事に確定したりと云ふ、尙ほ同所にては動力用として小瀬川水力にては不足を感ずる爲め曩に廣島市か出願中の瀧山川（六千キロ）水力を利用せんとし相當の補償を提供して譲受けする事に決したるものゝ如し、而して製鐵所に要する資本金は二百三十萬圓にして滿州本溪湖の鑛石を使用し木炭銑を製し其一ヶ年の製産力は一萬五千噸（一日平均二十噸の豫定）にて六月下旬より工事に着手し竣工迄に約六箇月は掛る筈なれば愈々事業に着手するは本年末にして之れに要する木炭の量は五百萬貫を要し中國、四國、九州又は樺太廳の直營に屬する木材乾留工場を譲受け同所に於て製造供給をなすに至るへしと。

### ●鞍山站鐵鑛經營

製鐵所設置決定 鞍山站鐵鑛は

奉天省民政司于冲漢氏及滿鐵奉天公所員鎌田彌吉氏の名義にて採掘權を得たるが採掘したる鐵鑛を供給すべき製鐵所に關する成案決定せざる爲め未だ準備に着手する運ひに至らざるも採掘方法は極めて簡易にて露出せる鑛石を採掘する迄のことに別て坑道を穿つ必要もなく唯軌道を敷設すれば足れるなり従つて資金も十五萬圓内外にて日支合辦組織とし日本側は無論滿鐵より出資するものにて支那側は本溪湖煤鐵公司の如く支那政府か直接關係するものにあらず于冲漢氏個人として出資するものにて總辦は日支人各一名宛となすことに内定し居れり猶製鐵所を設置すべきや又採掘せる鑛石を内地に輸送して製鐵すべきやに就ては多少問題

となり居りしも何分にも含鐵量少きを以て之を内地に輸送するは割に合はざるを以て愈製鐵所を設置することに決定せり而して斯る成分少き鑛石を以て製鐵をなすには勢ひ大規模のものとなさざるへからず其資本金も少くも一千萬圓以上の巨額なるべきか去る十七日の總會に於て大體決定し急速著手の運ひに至るべき模様なり。

右につき中村滿鐵總裁の談に依れば滿鐵に於て企畫せる製鐵所は日支合辦にて組織する目論見なるか翻つて滿洲鐵山の現況を見るに廣大なる大鐵山ありと雖も遺憾ながら其鐵分含有量甚だ少く爲めに鐵鑛の儘搬出し内地等にて製鐵しても引合はざるべく左ればとて滿洲に大製鐵所を設立し之を精鍊するは得策なるも製產品の輸出先きに付いては餘程研究を要することにて殊に内地に輸入せんか忽ち二重に課税せらるゝ等の關係あり此の仕向け地の目算立たざる間は大規模のものを起し難きを以て先づ試驗的に小規模のもの設立し仕向け地、精鍊上の經濟等を試験し愈確實に經營し得るの見込立たる後徐々に其規模を擴張せん方針なり云々。

### ●新製鐵所設立協議

中日實業會社の發企に係る製鐵所設

立問題は既記の如く倉知、尾崎、郷、和田の四氏特別委員となりて實行方法に一段の研究を重ねる事となりたるか其結果本月五日午前十時より各委員の會合を催し特別委員より諸般の報告をなしたる後大體の實行方法として